

年金改革の論点と選択肢

—年金・扶助・税制の一元化に向けて—

2008年9月20日

田中秀明

1. 年金制度についての公式説明

1. 我が国の公的年金は、国民皆年金、社会保険方式、世代間扶養という特徴

2. 社会保険の仕組みは、給付と負担の関係が明確であることから、国民の理解を得られやすい、自立して生活できる

3. 保険料の引上げを抑制するためには基礎年金の国庫負担を1/2に引き上げることが不可欠

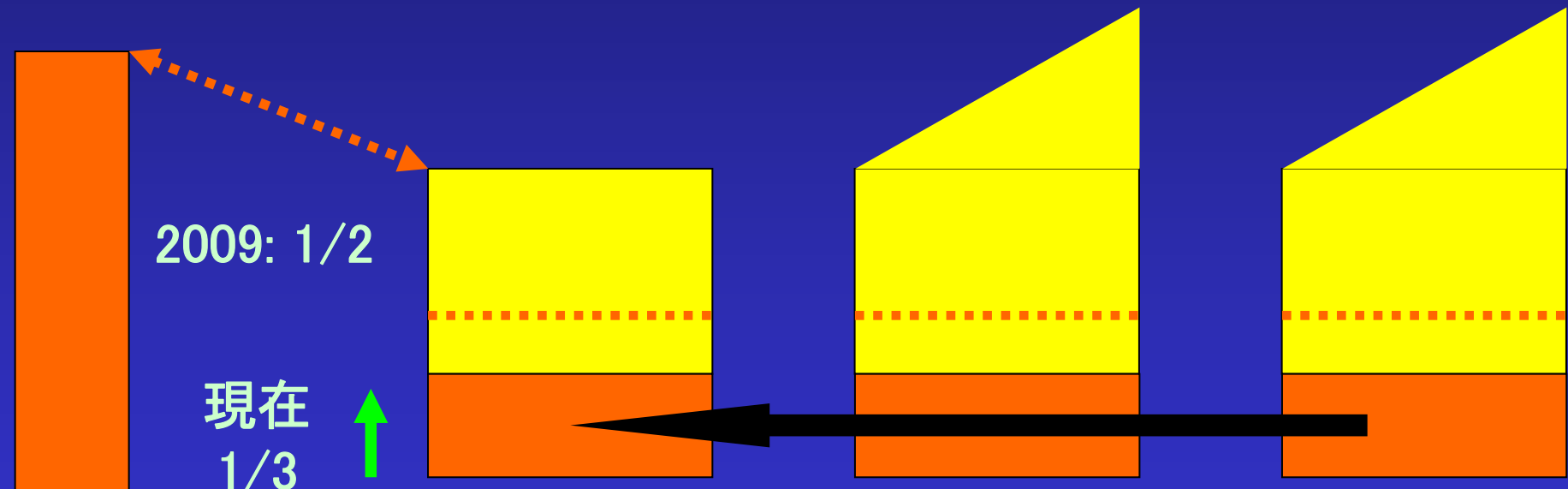
2 . 年金制度の実態

生活保護

国民年金
保険料
14,100/月

厚生年金
保険料
約15%

共済年金
保険料
約15%



基礎年金 (1985)

その本質は国民年金の救済にある

一般財源

3. 国民年金の空洞化

第1号被保険者 2,141万人

18年度



全体の40%

(厚生労働省の説明では5%)

保険料の納付率(18年度)

目標値 : 74.5%

実績値 : 66.3%

実質値 : 49.0%

(実質値は猶予等を含めた値)

4 . 課 税 の 状 況 (等 価 所 得)

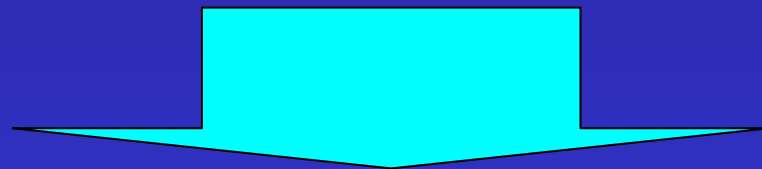
| 年 齢 | 25-29 | 40-44 | 50-54 | 60-64 | 65-69 | 70-74 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 当初所得:万円 | 371.1 | 352.1 | 429.7 | 252.7 | 183.0 | 143.1 |
| 総所得:万円 | 395.1 | 382.2 | 456.0 | 350.2 | 322.5 | 297.2 |
| 再分配所得 | 356.5 | 341.4 | 410.7 | 341.5 | 334.7 | 330.7 |
| 再分配係数:% | - 4.0 | - 3.0 | - 4.4 | 35.1 | 82.9 | 131.1 |
| 実効税率:% | 8.3 | 8.0 | 9.5 | 8.3 | 6.7 | 6.0 |
| 社会保険料率 | 10.1 | 9.8 | 10.1 | 8.5 | 7.5 | 7.1 |
| 税保険負担率 | 18.4 | 17.8 | 19.6 | 16.8 | 14.2 | 13.1 |

(出所)厚生労働省「平成17年所得再分配調査」に基づき計算

5. バーチャルな基礎年金

保険か？ セーフティネットか？

1. 年金制度内のFragmentation
2. 年金と生活保護のFragmentation
3. 年金と税制とのFragmentation



どうやって老後の所得を保障するか？
保険原理 VS 再分配原理

6. 主要国の一元化のアプローチ

| 保険(従前所得の代替) 再分配(セーフティネット) | | 公的保険 重視 | 私的保険 重視 |
|------------------------------|---------------|-------------|---------------|
| 公的扶助 | 一般制度 | 日本 | |
| | 高齢者向け | ドイツ フランス | イギリス アメリカ |
| 国民皆年金 (universal) | 最低保障 (GMP) | スウェーデン | |
| | 基礎年金 (定額) | カナダ | 豪州、NZ オランダ |

7. 一元化の方向と論点

< 少子高齢化 + 雇用の流動化 >

- ①より長く働くインセンティブ
- ②より恵まれた者に負担を求める
- ③透明でわかりやすい仕組み

1. 国民皆年金か否か？

2. 財源を国民誰からも所得に基づき
効率的に徴収できるか？

3. セーフティネットの給付の必要性を
どうやって審査するか？